ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 211
October
2010

トピックス

メンバー国との防災協力推進

ブータンGLOFプロジェクト

国際会議への参加

日米姉妹都市間による災害対策・支援関連情報交換ワークショップ

ADRC客員研究レポート

チンタカ・D・ヘマチャンドラ研究員

Asian Disaster Reduction Center
アジア防災センター

〒651－0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2　東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2010

●メンバー国との防災協力推進
ブータンGLOFプロジェクト

［写真1 モ川水面近くにかかるつり橋］

昨今の気候変動により氷河湖決壊リスクが高まっていると言われています。アジア防災センター（ADRC）のメンバー国にはこのリスクを持つ国が複数あり、対応策の構築が緊急課題となっています。アジア防災センターではブータンをパイロットプロジェクト実施国として選定し、ハザードマップ作成方法の開発や、政府やコミュニティを対象としたワークショップの開催などを通じた防災能力向上を支援し、それら一連の活動方法をとりまとめたマニュアルを整備することにより、同様のリスクを持つメンバー国に資することを目的としたプロジェクトを実施しています。８月17日から荒木田主任研究員がブータンを訪問し、災害管理局（DDM）、地質鉱山局（DGM）、エネルギー局（DOE）等の関係機関、既に国際協力プロジェクトを開始している国際協力機構（JICA）と意見交換を行い、プロジェクト対象地区と想定しているプナカ県では県知事や学校長と意見交換を行って、DOEの早期警戒センターや現在の観測状況を把握しました。大まかな把握状況は以下の通りです。

・1984年にポ川にGLOFが発生し、ポ川を対象とした対策事業はUNDPが実施中である

・モ川上流のGLOF発生リスクがある氷河湖は５つ確認されているが危険性は低い状態であり、かつ定常的観測が困難である

・モ川にGLOF発生時の洪水水位を予測することは、現段階ではデータが不足している

［写真2 プナカ県知事（右）とJICA研修員ノブ氏］

ADRCとDDMは最終的に二ヵ年にわたる協力プロジェクトの全体像について合意しミニッツにサインしました。プロジェクトの全体像は以下の通りです。

・2009年に洪水が発生したモ川について洪水及びGLOF対策を行う

・モ川上流域にコミュニティを主

続き

体とした水位観測機器を設置し、早期警戒態勢を整備する。
・モ川上流域の標高地図を作成する
・プナカにおける過去の洪水記録に基づくハザードマップを作成する
・住民に対する防災教育と訓練を実施する

今回の調査中に、今年１月にJICA総合防災行政コース研修員で来日したノブ氏と再会することができました。研修の成果を生かして防災行政を進める人々を応援していきたいと思います。

●国際会議への参加

日米姉妹都市間による災害対策・支援関連情報交換ワークショップ（10/15-17）の開催

本ワークショップは、自然災害への備えと対応に関する経験や知識を日米の都市の担当者が共有・意見交換することを目的として、ピースウインズ・アメリカ（NGO）とシアトル市危機管理局の主催により、10月15日から17日の３日間にわたり、シアトル市の緊急センター（Emergency Operation Center）で開催されました。

ADRCは、主催者からの依頼により、本プログラムの準備段階では、特に日本側の参加団体等との調整を行うとともに、プログラムの実施段階では、日本の災害時の政府における調整の仕組み等についての発表及び全体のプログラムの円滑な実施に貢献しました。

本プログラムへは、日本からは、防衛省、大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、広島県、広島市が参加し、他方、アメリカからは、FEMA（連邦危機管理庁）、サンフランシスコ市、シアトル市、キング郡（カウンティ）、ホノルル市、マイクロソフト社、ボーイング社等から危機管理・防災の担当者が多数参加し、過去の災害の経験や将来の災害への備えについて、現場に最も近い立場から実務に即した議論が活発に行われ、非常に意義深い交流が実施されました。特にアメリカ側の事例発表では、地方公共団体、民間企業、NGO等が協働して将来の災害への備えのための計画・体制づくりに取り組んでいるということが日本からの参加者にとっては非常に印象深いものとなりました。

本交流プログラムは来年以降も継続することが企画されており、日米双方の地方公共団体にとってさらに有意義なものとなっていくことが期待されます。

●ADRC客員研究員レポート

チンタカ・D・ヘマチャンドラ　（スリランカ）

はじめまして。私はスリランカから来たディネッシュ・チンタカ・ヘマチャンドラと申します。私はスリランカ防災人権省国立建築研究所（NBRO）で地質学者として働いています。外国人研究員としてADRCの客員研究員として参加できたことを嬉しく思います。

スリランカはインド半島の南側に位置する島国です。椰子の木が並ぶ海岸や、歴史的建造物、様々な風景が観光客を魅了しています。気候区分としては熱帯収束帯に分類されています。またスリランカは西南及び北東の方向で発生する２種類のモンスーンによって多くの雨がもたらされています。私たちの国は、このような降雨の影響に起因する災害に脆弱な地域となっています。特に、岩層が露出した高地などにおいて地滑りなどが頻繁に起きています。過去30年をみてみると、人工が密集した高地においては、これらの災害によって多くの人命や財

続き

産が奪われるケースが増加傾向にあると報告されています。

そこでスリランカ防災人権省国立建築研究所は、地形及び地質学的な災害の影響を受けやすい地域の調査をするため1984年に設立されました。1993年から地滑りのハザードマップの作成をはじめ、また合わせて現地調査を行うことで、危険性のある地滑りのエリアを複数確認することができました。

さらに、2004年のインド洋津波を契機に、スリランカ政府は災害管理システムの拡張に向けて対策を進めることになりました。スリランカ政府は2004年12月12日に防災人権省を設立し、国立建築研究所は災害管理分野において先駆者的な役割として機能し、マータラ(Matale)、キャンディー(Kandy)、パディヤペレラ(Padiyapelella)などの地滑り危険地域において、緊急対応や減災の活動を実施してきました。

ADRCの外国人研究員プログラムは、私やスリランカにとって災害管理を学ぶ素晴らしい機会となっています。様々な会議やセミナーへの参加、防災関連団体への訪問や講義の受講、被災地への視察などとても有益な活動となっています。そして、研修期間中は様々な催しや日本食を食べる機会があり、日本の伝統文化に触れることができます。それらは素晴らしい機会になると同時に、多くの学生やその他たくさんの人々との交流を深めることができると思います。この外国人研究員プログラムで得ることができる経験や知識を、将来自国の防災に生かしたいと思います。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。